

溶融炉と処分場問題を考えるネットワーク（準備会）

溶融炉問題ネット通信

創刊号 発行 2001年3月21日

発行責任・連絡先 溶融炉問題ネット(準)
事務局 壺阪道也
〒421-0111 静岡市丸子新田 277-4
TEL/FAX 054-257-3177
Email mirai2@bj.mbn.or.jp

< 溶融炉と処分場問題を考えるネットワークとは？ >

溶融炉と処分場問題を考えるネットワーク（略称溶融炉問題ネット）とは2月11日静岡市で開かれた静岡市、沼津市、御殿場市、島田市、吉田町、雄踏町の市民が集まり、灰溶融炉・溶融炉・最終処分場問題の意見情報交換会を機に結成が確認された緩やかなごみ問題の情報交換のためのネットワークです。当面は5月の正式結成を目指し、毎月1回の「溶融炉問題ネット通信」をお互い情報を寄せ合い発行することを通して溶融炉・処分場問題を中心に情報交換を目指す「ごみ問題に関心のある方なら誰でも参加できる」市民グループです。

第2回意見情報交換会＝溶融炉問題ネット準備会開催

日時 2001年4月1日（日）PM1：30より

場所 NPO活動推進センター（静岡市）

議題 1. 各地の灰溶融炉・溶融炉・最終処分場問題の意見・情報交換

2. 「溶融炉問題ネット」の運営について

3. 「溶融炉問題ネット」結成集会の運営について

4. その他

参加資格 ごみ問題に関心のある方ならどなたでも。
溶融炉について賛成・反対、行政、企

業、一般市民どのような立場の方でも、参加を歓迎します。

溶融炉問題ネット結成集会＋記念講演会

日時 2001年5月27日午後1時30分より

場所 静岡市女性総合会館「あざれあ」研修室

内容

「溶融炉と処分場を考えるネットワーク」（略称溶融炉問題ネット）の結成集会

記念講演「灰溶融炉・溶融炉に未来はあるのか？」

（仮題）津川敬氏（検証ガス化溶融炉著者）

参加費 500円～1000円（未定）

「溶融炉問題ネット通信」の発行・編集について

発行 毎月月末までをメドに、基本的に電子メール通信として発行。必要な方にはA4版PDFファイルを添付し、各自それを印刷して配布する。

内容 各地・各個人の溶融炉・処分場問題に関する情報・意見を毎月第3日曜日までに事務局壺阪まで（Email: mirai2@bj.mbn.or.jp）まで送信したものを原則無修正で掲載する。（一部編集の都合上で変更の可能性あり）

新焼却場建設／島田の問題点（島田市CEES 北島高子発）

島田市ではゴミ焼却場の耐用年数の期限が迫り、新焼却場の選択が以前より検討されてきた。前提として、

静岡県ゴミ処理広域化計画に基づく1市4町（島田市、金谷町、川根町、中川根町、本川根町）総人口114,622人による処理。

循環型のゴミ処理施設

最小残渣の減量が十分

地域特性によるゴミ質の変動に対応可能（又、埋立ゴミを掘り起こして焼却可能なこと）

など、など……。

以上の事柄に対しての問題点

1) 市民のほとんどが詳細を知らされていないにもかかわらず、2000年3月発行の報告書には、整備計画として、処理方式、施設規模などが既に記載されている。

2) それにもかかわらず、1月25日には、ガス化溶融炉4社をよんで、公式の説明会を開催している。

この矛盾をどうするのか？

3) さらなる憂慮は、ガス化溶融炉を長年導入している市を視察して感じた『何でも燃やせるガス化溶融炉』『ガス化溶融炉なら分別不要』というゴミ処理施設関係者や市民の意識である。

ガス化溶融炉について

直接溶融炉（シャフト炉方式）の問題点として

ア) シャフト炉方式そのものの問題点

イ) コークス使用によるCO2濃度上昇

ウ) 上記3)の人々の意識の問題

エ) 容器包装リサイクル法が今より厳密に運用されていた場合プラスチックなどを分別に取り除いたら、ガス化はうまくいかないだろう（福岡大学工学部：花島正孝教授）

オ) 1300～1800 という高温の炉では未知の化学反応が起きる可能性を否定できない。

カ) 炉の運転には高度な技術が必要とされる（原子

力発電所並？)

キ) スラグとメタルの行方の不安

・S社はH15年までに20件、3983トン/日の焼却炉を稼働予定

・他のガス化溶融炉会社も全て稼働する時、それで

もスラグの行き場はあるのかな??

・スラグの安全性に不安 広範な汚染の心配

・メタルは銅との合金なので、カウンターウエイトぐらいしか使い道がない。こちらも先行きに不安あり!

RDF は?そして灰溶融炉! (御殿場市市民の会 勝又さつき発)

まず、私が灰溶融に疑問を持ったのは、御殿場市小山町広域行政組合でのRDF(ごみ固形燃料)が失敗しているからです。

RDF施設の当初のランニングコストは焼却施設より安いと言われていましたが、年々、計上されるコストが上がっています。平成11年度7億円と言われていたのが、平成13年度の予算では、12億円(人によっては14億円とも言っている)と聞きました。(裏付けはとってないけど)

何で、こんなに違ってくるかというと、引取先のない固形燃料の保管が負担になっている事が一つにはありますが、それ以外に、メーカーのオリジナルの機器が多く、それらのメンテナンス(例えば破砕機の交換などは3~4ヶ月に1回は必ずやらなければいなくて、大きな刃を1度に片側75枚?両側で150枚くらい1度に交換しなければ使えないなど)費用が毎年毎年かかってくるからです。

RDF導入当初から、灰の処理について、灰溶融施設の建設も計画されていましたが、ここに来て引き取り手のないRDFの使い道として、灰溶融施設を建設しようと言う話もあります。化石燃料を使って、RDFを作って、また化石燃料を使って1300度以上の灰溶融をやるうなんて、まったく、資源循環に反していると思うのですが、広域の事務局では「いかに処理するか」しか考えていないと言うのが見え見えで、施策が後手後手にまわり、メーカーのいいカモです。

<わたしの意見>

灰溶融施設は、大量の様々なゴミを一度に処理し

てしまおうという安易な発想から来ていて、そこには、地球に対する感謝や、物を大切にしようという人として守らなければいけない考え方が欠如しています。確かにどこの自治体も処分場が不足していますが、分別すれば生かされる物を、1300度以上の高温で処理するという基本的なスタンスが、市民の日常の概念からかけ離れていて信じる事ができません。子供達に何を残したいかと考えたとき、スラグや有害物質を残したいと考える人はいないでしょう。灰溶融技術が進んでいくとしても、物の命を生かす発想や人間は地球上で一人勝ちはできない、人間も様々な生命とともに絡み合っているんだという考え方を残していきたいと思っています。大手ゼネコンの金になる環境問題解決法とは一線を画して、活動が続けたいと思います。といっても小さな市民が小さな声を上げてもかなうはずはないのだから、こうしたネットワークから大きな声にして届けたいと思います。それから、新技術を売り込んでくるメーカーに対して、自治体側には十分な技術者がいないのだから、市民は自治体とともに考えていけるよう行動しなければいけないと思っています。このネットワークにも今度の、講演会にも多くの自治体担当者が参加して欲しいと思います。ゴミは自区内処理といっても、川上ではどんどん生産して、全国規模で降ってくるのだから、市民と自治体は対立せずに、協力しあって、大元へ返す運動、大元でいらぬ物を作らないような社会を作る活動をしていかなければ根本的な解決はできないと思います。

静岡県西部(雄踏町 高田友吉発)

西部地域においては特に動きはありません。

津川氏から電話がありました。『昨日は沖縄でガス溶融炉、本日は豊田市で溶融炉、豊橋き11月にガス化溶融炉稼働・・・と言ったように全国的に思考停止に陥っている』とのことでした。

ホームページでみたのですが、・・・・・・埼玉県の51市町村(全県92市町村)が共同で、「焼

却灰」の「セメント原料化」をめざすことが決定されたとのことでした。「焼却灰」の成分がセメント原料とほぼ同一の為に、「溶融処理」や「埋立処理」の代替え処理として採用する自治体が出てきています。スケールメリットやセメントの質的問題等の検証が求められていると思います。

吉田町ごみ処理の現状（吉田町議会議員 大塚邦子発）

吉田町のごみ処理は、隣町の榛原町との共同で行っています。（吉田町榛原町 広域組合）

1999年4月、旧清掃センターの老朽化に伴い榛原町静波に新清掃センターが建設されました。

処理能力：33.5トン/16h/日×2基＝67トン/16h/日

最終処分場：焼却灰のみ埋め立てる...18年間で埋立完了（見込み）

建設費用：23億円

施工業者：五洋建設（日立造船）

コンサルタント：環境フレックス

【燃えるごみ】

現在は、一般ごみ、事業系ごみ、公用分として平均55トン/日処理されている。（処理能力の82％）焼却灰は5トン/日（平均）焼却灰は、キレート処理後埋め立てる。（焼却灰を安定化させるためキレート剤を混ぜる。）2000.12月末で10％埋立済み...ほぼ試算どおり（担当職員）

【廃プラスチック】

昭和60年から島田榛原地区広域市町村圏組合に委託し、同不燃物処理センターで減容固化された後、島田市にある最終処分場に埋め立てられている。

（不燃物処理センター運営費：1,800万円：平成12年度吉田町予算）

【島田榛原処理区域ごみ処理広域化計画】

平成29年度を目標に1市6町（島田市、榛原町、吉田町、金谷町、川根町、中川根町、本川根町）で

ごみ処理を行うとしている。

島田市が平成17年頃を想定してすすめているガス化溶融炉建設は、この計画に添って1市4町で運営。吉田町・榛原町は将来的には加わる予定。

これについては、圏域ごみ処理広域化協議会において協議の結果、吉田町榛原町は、新焼却場（ガス化溶融炉）の分担金が高額であること、吉田町榛原町の清掃センターが新設されたばかりであるという理由で当面は参加を見合わせるとの結論を出した。

そこで問題となるのは、廃プラスチックの処理。不燃物処理センターが閉鎖されれば廃プラスチックの行き場がなくなる。

吉田町榛原町の清掃センターの焼却炉設計条件は、廃プラ混焼率限界値25％となっている。

このとおり廃プラを燃やせば2トン/日は処理できる。（それでも年間400トンが未処理）しかし、建設に当たり広域組合は地元と『廃プラスチックは燃やさない』との約束をしているので、混焼については理解が得られ難いのが現状。

廃プラ処理については、自前で燃すのか民間委託にするのか今後の検討・結果を注視したい。

こうした状況の中、広域組合の実施計画書を調べてみたところ、平成14年『廃プラ処理設備等移設工事』、平成15年『廃プラ類処理設備工事』とあった。金額は明記されていなかったが、燃やさず減容固化して埋め立てることにする方針か、埋め立てる場所はどこなのか、疑問ばかりで先が見えない。

沼津市のごみ問題（沼津ゴミ問題を考える会 近藤泰平発）

「沼津方式」

我がまち沼津市は、1975年から全国に先駆けて、ごみの三分別回収（燃やすごみ、埋め立てごみ、資源ごみ）をスタートしました。行政職員が市民に対して日常的な分別の協力を大胆に呼びかけたこのやり方は「沼津方式」という呼び名で広く知られてきました。

「処分場満杯の危機、ダイオキシン対策」

その後四半世紀が経過、ごみ量の増大、ごみ質の変化は、ごみ問題に大きな影響を与えるようになりました。とくに、焦眉の問題となったのは、埋め立てごみの「最終処分場」満杯の危機と燃やしたごみから発生する「ダイオキシン」です。平成11年4月から、市はペットボトルを資源ごみとして収集し県外でリサイクルすることと、それまで燃やしていたプラスチックごみを別に収集し、県外でサーマルリサイクルすることにし、埋め立てごみを大幅に減らすことで、最終処分場の延命を図ることにつなげ

ました。といっても、自転車操業みたいもので、第二の処分場を探してますが、近隣住民の合意がとれず、交渉は難航してる模様。

「60億円掛けて炉の改修工事」

また、ダイオキシン対策として、現在ある2基の炉を60億円をかけて改修することになりました。人口21万の沼津にとって、この60億円は大きな負担であることはまちがいありません。

沼津の燃やすごみの特徴として、水分の多さが指摘されています。理屈で考えれば、生ごみを燃やさなければいいということは皆良く分ってるのですが、家庭での堆肥化や水切りの励行を呼びかけるにとどまっている状況です。で、ガス化溶融や灰溶融に関しては、市単独では、予算の面から到底手は出せないものと推測されます。ごみの広域処理ということでは、当然、「有力な」手法として選択肢のひとつになってる事でしょうが、市民の間ではまだ話題になっていません。

最終処分場（沼津市と富士市の境にある植田）の見学をして気が付いたことは、人類は縄文時代よりも知的に退化してるな、ということです。三内丸山遺跡からは土中で最終的に分解されないものは出てこなかったはず。火を使って「燃やす」というテクノロジーは人類の生活を便利にはしましたが、そのために失うものが大きかったことは今や明白です。古代人は、たとえば、ギリシア神話ではゼウスから人類のために火を奪ったプロメテウスは処刑されています。日本神話でも、火の神を産んだことにより、イザナミの神は黄泉の国に行ってしまうとい

う話があります。古代人の直感、おそろべしかもしれません。

じゃあ、燃やさんのだったら最終処分はどうするの？ということになります。景気が後退してもいいから消費を減らせばいいというのは個人的見解です。商品の広告・宣伝の禁止。自動車などのモデルチェンジは10年に一回。食事は一日2回。真の意味での拡大生産者責任の法制化。なんていったら、そこから中から石が飛んできそうですが、溶融しないんだらどうすんの？ということは皆で考えましょう！

三重県の新興住宅地で今起っていること（ゴミゼロネット 壺阪道也発）

四日市市の中心部、桜台団地という大きな新興住宅地（近鉄四日市駅から西へ 8.8km 小山町その北東約800m）がある。そこで昨年12月18日夜、住民400名と県側延々17時間にわたって交渉が行われたのだが、県側の強行突破でその住宅地すぐ横に県の出資の半官半民の廃棄物処理センターによる溶融炉施設が今年2月住民の猛反発の中、建設され始めた。（とにかく想像を絶する大騒動に発展しているようだ）

こんな騒動が起きているとは知らない私のところへ昨年12月27日、1通のメールが飛び込んできた。「四日市の一市民です。...溶融炉という言葉を知ったのが12月17日...この10日間で県が建設を決めてしまった...わらにもすがる思いでメールしました...」ゴミゼロネットのホームページを見てのメールだった。

今年2月に入り「住民が反対する中、ついに強行着工された！」というメールが届く。その方が紹介してくれた「みどりと環境を守る四日市市民の会」のホームページを見て、その全容がわかった。しかし、何故が残った。

ごみ処理は市町村の固有の事務。何故県が“家庭ごみと産業廃棄物用”の溶融炉施設を造るのか？

メールをくれたこの近隣住民が知ってからたった2ヶ月で建設が何故強行着工されたのだろうか？行政がひどいといってもこれほどまでなのは？

静岡市灰溶融炉導入建設決定へ（ゴミゼロネット 壺阪道也発）

静岡市は約65億円かけて、灰溶融炉導入に踏み切ろうとします。半分は市財政の借金、半分は国からの補助金（これも回りまわって国民の借金）とほとんど借金でまかなわれ、一般財源は10億円ほどにしか過ぎません。運転コストも1*あたり2

三重県といえば原発建設を見直したあの北川知事の県。「生活者起点に重点を置いたアカウンタビリティ（説明責任）」掲げているのに何でこんな無茶苦茶なことを？

溶融炉問題ネット5月結成集会の記念講演をお願いした津川敬さんに電話で問い合わせたところ、「いんだすと」に掲載された「公共関与は錦の御旗か」という文章をFAXしてくれた。（全文はホームページに公開）

乱暴に要約すれば、廃掃法の改正により、各県に廃棄物処理センターを自由につくることができるようになった産業廃棄物処理施設は周辺住民の同意が必要とされているが、公共関与（県等が出資すれば）の施設は住民の同意がいらない（三重県の場合）産業廃棄物の処理場が危機的状況にあり、処理センターの需要が大きいと県が判断...という背景が浮かび上がってきた。

私にはこの溶融炉施設の是非を正確に論評することはできない。しかし、百歩さがって「三重県の産廃等のごみ事情から、どうしても必要な施設であって、この住宅地のそばが最適地」であったとしても、何故もっと情報公開をし、住民に対する説得の努力をしなかったのだろうか？津川さんは「公共関与の錦の御旗」の“おごり”であると断罪している。大量生産・大量消費のなれのはて、この種の騒動が全国に飛び火する予感がする

0円近くかかるようです。確かに、静岡市の最終処分場の余命はあと数年。その対策は急がれます。三重県ほどではないにしろ、ほとんど市民が知らないところで決定着工されるのはいかなるものでしょうか？

関連ホームページ

みどりと環境を守る四日市市民の会 <http://www.ne.jp/asahi/yokkaichi/midori/>

溶融炉問題ネット <http://www.geocities.co.jp/NatureLand/5757/youyuro/>

ゴミゼロネット <http://plaza25.mbn.or.jp/~gomizeronet/>